

# 社会福祉法人杉樹会

## 令和6年度

# 事業報告書

### 目次

#### 令和6年度 事業報告

##### 重点事項総括／行事・会議等開催状況

〔	社会福祉法人杉樹会 本部	1
	委員会総括報告	3
	特別養護老人ホーム さんじゅ阿佐谷	5
	特別養護老人ホーム さんじゅ久我山	9
	居宅介護支援事業所 さんじゅ久我山	12
	杉並区地域包括支援センター ケア 24 久我山	14

##### 各種データ報告

〔	各施設の状況：施設利用率状況	17
	在籍利用者の状況	18
	事故・ヒヤリハット	19
	ボランティア・実習などの受け入れ	21
	生活支援事業サポートさんじゅ実施状況	21
	法人職員の状況：勤務状況	22
	収支計算書(決算報告書)作成にあたり	24

# 令和6年度 事業報告

## 社会福祉法人杉樹会 本部

### 【重点事項の総括】

(文責：法人本部長 中田あかね)

令和6年度は法人全体では特別養護老人ホームの稼働率も高く推移し、大きな感染症拡大などの要因がなかったこともあり、事業運営は順調に推移しました。並行してこれからの法人、施設のあり方を内部で検討する機会や、新規事業を模索して理事会でも意見交換を行ってきました。新規事業は次年度以降の着手となりますが、新たな事業分野が想定されることから、人事給与制度の見直しについては一旦立ち止まって考える課題としたものです。

法人全体の【事業方針】としては、前年度方針を踏襲しており、中期計画と連動し、

1. 経営《経営基盤強化》
2. 運営《高付加価値化》
3. 地域《連携・協働》
4. 人財《育成・評価》

を掲げ、その方向性の中で何が出来るかを拠点、サービスごとの目標、計画立案を行っています。法人本部の重点目標・計画としては以下の項目を掲げました。

#### 1. 経営

財務会計からマネジメント会計への転換を目指し、迅速な月次報告とその評価、分析まで出来る事務局体制づくりを目指してきました。当該年度ではまだ成し遂げたと言える段階には至っておりませんが、管理者に年度途中で予算執行状況の報告や現状の説明を事務局主導で実施することが出来ています。今後はさらなるスピードアップと分析の精度向上、分析結果を踏まえた提案力も必要と認識しています。

#### 2. 運営

##### (1) 人事制度の見直し

年度当初には新たな人事評価システムへの移行準備に入ることを目指して、職種別の給与表やジョブディスクリプション(職務基準書)、評価表などの準備までほぼ終了しました。しかしながら、新規事業が加わる方向性が明らかになったことで、既存の枠組みだけでは対応し切れないことを想定して、実施時期を延期しています。

介護職員等の処遇改善手当制度の変更により、施設職員以外の在宅・相談援助部門職員の処遇を改善することも踏まえ、全体の手当のあり方を見直すなど、現状で対応できることを実施しました。

##### (2) 勤怠管理システム等の更新

給与システムや勤怠管理システムの更新時期に合わせてシステムのあり方を検討し、本年度はスマートフォンによる打刻や勤怠に関する各種申請・承認を可能にするシステムを導入しました。これにより給与計算事務の効率化、時間削減とともに、管理・監督者による勤怠管理のあり方も変更しました。ここから生じる業務効率化は本部事務局にとって、より高度な業務への注力を可能にするものと言えます。

#### 3. 地域

ホームページの更新等は各拠点担当者とも連携しつつ、お問合せなどの外部からのアクセスについ

ては迅速に担当部門へ振り分けて対応しており、特に寄付の申し出や人材募集への応募、施設見学希望などの問い合わせは増加しています。

#### 4. 人財

人財育成計画を更新し、年間を通じて必要な研修を推進しています。法人全体での研修の必要性についても検討しており、接遇やデジタルリテラシーに関するものなど、直接的な専門職分野以外の研修を今後の課題として次年度に申し送っています。

### 【行事・会議等開催状況】

時 期	理事会等 会議予定	行事 その他
令和6年	4月 運営委員会(25日)	発令式(1日) 入職2名 特定業務担当及び委員長等発令 功績職員表彰(4名、計4件) 永年勤続表彰9名
	5月 運営委員会(30日) 監督職会議(10日) 研修委員会(31日) リスクマネジメント委員会(24日)	春季健康診断(全職員)
	6月 運営委員会(27日) 理事会(10日) 定時評議員会(25日) 労働衛生委員会(20日) サービスマナー向上委員会(12日)	職員人事考課(夏季賞与評定) 法人登記(資産、人事)届出
	7月 理事会(1日) 運営委員会(25日) 研修委員会(26日)	夏季賞与支給
	8月 運営委員会(29日)	
	9月 理事会(9日、17日) 運営委員会(28日) リスクマネジメント委員会(6日) サービスマナー向上委員会(12日)	有期雇用契約職員人事考課(契約更新)
	10月 運営委員会(31日) 労働衛生委員会(29日) 研修委員会(25日)	
	11月 運営委員会(28日) 監督職会議(18日) リスクマネジメント委員会(1日)	設立記念日(10日) 秋季健康診断(指定職員) 職員人事考課(冬季賞与評定)
	12月 理事会(21日) 運営委員会(26日) サービスマナー向上委員会(12日)	冬季賞与支給
	令和7年	1月 運営委員会(30日) 研修委員会(24日)
2月 運営委員会(27日) リスクマネジメント委員会(14日)		功績職員表彰《令和6年度実績》 推薦募集(2/1~28)
3月 理事会・評議員会(17日) 運営委員会(27日) 労働衛生委員会(26日) 生産性向上委員会(25日) サービスマナー向上委員会(12日)		功績職員表彰選考会(11日) 職員人事考課(昇給評定)

## 委員会総括報告

### 研修委員会（委員長 沼知 豊）

今年度は、新人研修に外部の研修を取り入れる事を想定し、研修推進員2名がキャノンの新人・若手研修をプレ受講しましたが、現場には必ずしも必要ではない研修が含まれていること、費用対効果の面で検討した結果、導入を提案するには至りませんでした。

研修の体系化についても議論しましたが、本部の人材育成計画等が揃わなかったため、具体的な提案・決定はできませんでした。

そのような中、各拠点の介護現場の研修体系について、現実的な意見交換や情報交換を行う機会があり、今後の新人研修においてヒントになるような話し合いができたと思います。

キャリアパス研修は、久我山、阿佐谷、ケア24の3拠点で各1回ずつ開催することができ、参加職員に偏りはあるものの、学びを深めることにつながったと思います。

普通救命講習は、久我山で開催することができましたが、阿佐谷では所管の消防署に講習の依頼が殺到した結果、開催することができませんでした。次年度は、前期に阿佐谷で開催できるように例年以上に早く予定を組んでいきたいと思っています。

### リスクマネジメント委員会（委員長 草野祐治）

年間スケジュールとして、リスクマップの作成、テーマとして「災害」「感染症」「事故」について委員会で協議し、以下の内容を実施しました。

- ① リスクマップ：両拠点の各部署が既存のリスクマップを点検した意見収集を行い、委員会で確認。令和6年度版として更新。
- ② 災害：BCPの更新後の点検を行う。夏場・冬場の保温・保冷が課題。台風では窓ガラスが割れる恐れがあるため、対策を考えていく。伝言ダイヤルを用いた想定訓練に13名が参加。安否確認に1件3分程度かかった。伝言ダイヤルは20名上限であった。また、NTT東日本では企業向けに使用をすすめてはいなかった。他のツールのことも調べることにした。職員参集カードの作成を年間通して検討した。両拠点の防災訓練実施の内容と確認を行った。
- ③ 感染症：BCPの更新後の確認を行い、特に大きな変更点はなし。
- ④ 事故：両拠点で12月までの重大事故の集計を行う。集計後、課題となる事故について、両拠点で検討を行った。

次年度は、職員参集カードの作成、有事の両拠点間の相互応援訓練の実施、リスクマネージャー間で対策や研修の実施をすすめていきます。

### 労働衛生委員会（委員長 伊藤祐子）

6月20日、10月29日、3月26日（産業医参加）、予定通り3回開催できた。

●ストレスチェック：11月に実施。産業医から検診結果共に大きな変化はないが、「リモート受診」でサポートすることが可能、との提案があった。必要に応じて職員に周知、情報提供を行いたい。

●職員意識調査：ストレスチェックと同時に実施。今年度のテーマは、「退勤後の過ごし方、職員主催の親睦・レクリエーションについて」新型コロナ5類移行後、行動制限が緩和されたことで、職場主催でやってほしいことがあれば、自由に記述してもらい、集計し、公表した。

●スポーツマッチ：昨年度に続き、職員参加の健康づくりイベントを企画。今年度は男女別、年齢に応じハンディをつけ「握力測定」を12月に実施、昨年の教訓を活かし、業務に支障が無いよう短時間で実施、参加しやすかった。

●感染症対策：入居者、職員へのインフルエンザワクチン実施、及び入居者への新型コロナワクチンを任意で実施。通常の感染対策継続で感染予防に努めた。

●労災発生状況：業務中3件、通勤中2件、特別多いことはないが引き続き職場での注意喚起が必要。

### **生産性向上委員会（委員長 山崎修一）**

前年度の業務効率化プロジェクトチーム改め、生産性向上委員会として委員会を開催。両拠点での取り組み等の情報交換を行いました。新たに取り組んだことはありませんでしたが、移乗機器や音声入力ソフト等を試したいという意見が出ているため、来年度、デモを行っていく予定です。

また、生産性向上推進体制加算や他の獲得できそうな加算の検討および体制を整備していきます。

### **サービスマナー向上委員会（委員長 本田怜士）**

サービスマナー向上プロジェクトチームを引き継ぐかたちで委員会が発足しました。委員会は6月、9月、12月、3月の年4回開催しました。

活動内容としては、サービスマナーに関する内部研修（勉強会）を企画、実施し、各拠点で認知症対応のロールプレイを実施しました。

また、介護職員が使用できる電話対応マニュアルの作成にも取り組みました。年度内の完成には至りませんでした。次年度も作成をすすめ、周知、活用できるようにすすめていく予定です。

# 特別養護老人ホーム さんじゅ阿佐谷

## 【重点事項の総括】

(文責：施設長 田中則和)

令和6年度は介護報酬改定の年でした。改定内容には「生産性向上」や「医療との連携」が評価されるものがあり、これからを見据えた働き方やサービス提供体制が問われる内容でした。最期までその人らしい生活を支援するために、望まれる介護サービスを提供するように取り組みました。

日頃からの感染対策を堅持していますが、コロナ禍を経て社会全体が日常を取り戻すなか、私たちもその歩みを合わせながら施設運営に取り組みました。

令和6年度の重点目標を達成するために、事業計画として掲げた項目とその取り組み状況は以下の通りです。

### 1. 安定した施設運営

#### (1) 2拠点100床の特養としての連携

特養は、退居から入居までの期間を12日間以内として取り組みました。両拠点の生活相談員ミーティングで申込者の待機状況を確認しながら、迅速な入居につなげました。

ショートステイは、空床情報の居宅介護支援事業所への発信やホームページ掲載を継続しました。介護職員のショートステイ担当者が、ケアの手順内容や24時間通した利用時の様子について、生活相談員と共有し、より良い居宅生活につながるように情報発信しました。慣れない施設環境のなかでの生活を支え、サービス価値向上につながったことでもありました。年度内の新規契約件数は、21件でした。

#### (2) 支出削減

水道光熱費は、前年度対比で使用量の削減の達成には至りませんでした。

電気：プラスマイナス0% ガス：プラス0.62% 水道：プラス10%

前年度より使用量が増えた要因として、職員体制上を理由に入浴サービスを中止せず、入浴サービス稼働日数が増えたことがあります。

物価高騰による各メーカーの価格改定があるなか、両拠点で使用している排泄ケア物品などの見直しや価格交渉をしました。平時より使用する衛生消耗品は商品の見直しや使い方の点検をして、無駄のない使用を浸透させていきました。

### 2. 効率的な施設運営

#### (1) 効率的運営のための業務改善

介護職員が担当していた直接ケア以外の業務を点検し、補助業務担当職員との役割分担を再考しました。業務シェア・シフトに取り組んだ結果、介護職員の直接ケアに専念する時間が増えました。より手厚い介護サービス提供体制を深めていきます。

情報伝達・共有は、重要かつその分、手間がかかることでもあるため、業務用スマートフォンのメッセージアプリを用いて、職員間・職種間の迅速な情報共有と効率化を図りました。手書きのメモや内線電話をせず、時間を問わず確実に伝達することができたこと、同時に複数名がその情報を取得することで効率的に働くことができました。特に夜勤帯の職員配置状況、些細な情報伝達もでき各自の伝える意識も高くなりました。

今回の介護報酬改定により、設置義務が明示された生産性向上委員会を創設しました。生産性の向上や職場環境の整備などに取り組み、職員の負担軽減のための対策を検討していきます。

## (2) 感染症や災害への対応力を強化

自然災害発生時および新型コロナウイルス感染症発生時における業務継続計画に則り、想定訓練を実施しました。初動対応を中心に、各自の役割分担の確認や初動対応時のポイントを整理しました。実施状況は、以下のとおりです。

自然災害発生時の想定訓練実施日：5月28日、9月19日

感染症発生時の想定訓練実施日：12月17日、12月21日

## (3) より良い施設ケアへの取り組み推進

短時間ミーティングに多職種が参加し、個別ケアについて多角的な視点で話し合う機会が増えました。内部研修も多職種での参加で実施することにより、多職種協働の意識が深まりました。

終末期ケアでは、眠りスキャンを活用して呼吸数、心拍数のデータを確認しながらケアを行い、ご家族とも共有することで安心してもらう終末期ケアにつながりました。

## 3. 多様な人材が活躍できる施設

### (1) 業務を覚えるだけでなく、仕事ができる人材の育成・介護技術勉強会の開催・研修発表会の開催

新人・後輩職員が抱える悩みや疑問を適時に解決できるように、毎日の短時間ミーティングのなかで、意見交換をしました。その意見を集約して介護技術研修の開催や事故対策を講じました。

### (2) 介護福祉士養成校等の実習生の受け入れと採用

介護福祉士養成校からの実習要請は、例年同様にあり、積極的に受け入れました。外国籍の学生が増えており、将来的に外国人人材の採用も想定することもできました。

### (3) 特別支援学校からのインターンシップの受け入れと採用

東京都教育庁より特別支援学校のインターンシップの受け入れ依頼がありましたが、阿佐谷での実習は実現しませんでした。

### (4) シニア層が活躍できる職場づくり

65歳以上の職員が増えていくなか、就業意欲がある人材が、少しでも長く活躍できるように、定期的な面談をすすめてきました。業務量の多寡やその内容の確認し、無理が生じない働き方や担当業務の調整をしました。

### (5) 2拠点間交流研修

杉並施設長会主催の法人間交流研修などに9回参加しました。法人内交流研修は目的や対象職員を明確にし、次年度に計画しました。

### (6) リフレッシュ休暇

正職員は夏季休暇3日を用いた3連休以上の休日が、希望した月に取得できるようにリフレッシュ休暇の年間計画を立案しました。

## 4. 地域と協働

### (1) 介護教室、さんじゅ体操の開催

杉並区の受託事業である「家族介護教室」を予定通りに3回開催しました。6年度は新たに「サルコペニア」「嚥下」をテーマにしたものを開催しました。杉並区の履行評価は『優良』評価でした。開催状況は以下の通りです。

10月30日：機能訓練指導員による「知っておきたいサルコペニア」 7名参加

11月27日：介護職員による「知っておきたい高齢者介護のコツ」 4名参加

1月29日：管理栄養士による「知っておきたい嚥下機能の変化」 9名参加

地域貢献活動は、機能訓練指導員が企画した「さんじゅ体操」を全7回開催し、生活相談員が企画した「特養を知る」を開催しました。「さんじゅ体操」はリピーターが増えたことや町会や地域包括

支援センターへの情報提供も重なり、参加者が徐々に増えています。

家族介護教室や体操講座の参加者からは、様々な観点で介護相談を個別で受け付けることが続きました。そのニーズを踏まえ、介護の関心や心配ごとがある方を対象に「特養を知る」「さんじゅカフェ」を企画しました。今後の開催頻度や広報活動の工夫し、次年度も取り組んでいきます。開催状況は以下の通りです。

5月28日：「運動で脳力を高める」	6名参加
6月25日：「首・肩・骨盤の体操とセルフケア」	9名参加
9月24日：「目まいの予防体操」	7名参加
11月22日：「特養を知る」	4名参加
11月26日：「呼吸で変える体幹づくり」	14名参加
1月28日：「横隔膜を躍動させよう」	6名参加
2月25日：「首・肩・骨盤の体操とセルフケア」	7名参加
3月25日：「股関節健康体操」	5名参加
3月31日：「さんじゅカフェ」	3名参加

## (2) ボランティア活動者との協働

コロナ禍契機に活動が縮小したボランティア活動は、幅広い募集をしたことで、その活動に興味を持たれた方が徐々に増えました。定期的な活動希望者は、繕い物や建物内外や車椅子清掃、レクリエーション、ネイルケアなどの活動を取り組まれました。不定期の活動希望者には、楽器演奏があり、普段の喫茶クラブに合わせて活動していただきました。ボランティア活動者が増えたことで、アクティビティ活動内容が充実しました。

## (3) 自治会等や相互応援協定施設との防災訓練の実施

阿佐谷北1丁目町会との合同の防災訓練を実施しました。施設内で火災が起きたときを想定した避難訓練を行いました。近隣住民の方と建物設備や避難経路を確認しました。

実施日：6月18日

近隣特養と災害活動相互応援協定に基づき水害を想定した相互応援訓練を実施しました。

実施日：2月18日

【行事・会議等開催状況】

時 期	施設行事 (利用者に関するもの)	内部行事 (職員主体) 《会議・研修・訓練等》	
令和6年	4月 お花見 (1日～7日)	<b>クラブ活動等(毎月)</b> ・ 絵画クラブ (第2水曜) ・ いきいきクラブ (第3水曜) ・ 書道クラブ (第4水曜) ・ 喫茶コーナー (第1、2木曜) ・ 誕生会(誕生日当日)	褥瘡対策委員会①(9日) 終末ケア会議① (17日)
	5月 新緑見物 (5日～11日)		身体拘束廃止・不適切ケア防止委員会① (14日) 入所検討委員会(28日)
	6月 外食会 (テイクアウト) (12日、19日、26日)		感染症対策委員会①(14日)
	7月 七夕 (7日)		事故防止・安全対策委員会① (10日) 入所検討委員会(16日)
	8月 納涼祭 (8日)		身体拘束廃止・不適切ケア防止委員会② (13日)
	9月 長寿を祝う会 (15日)		感染症対策委員会②(10日) 虐待防止委員会① (10日)
	10月 外食会 (テイクアウト) (9日)		終末ケア会議② (15日) 褥瘡対策委員会② (15日) 入所検討委員会(20日) ※福祉サービス第三者評価訪問調査受審(28日、結果報告 12月10日)
	11月 作品展 (1日～7日)		感染症対策委員会③ (11日) 身体拘束廃止・不適切ケア防止委員会③ (11日) 入所検討委員会 (30日)
12月 クリスマス(25日)	事故防止・安全対策委員会②(11日)		
令和7年	1月 新年を祝う会 (1日)	褥瘡対策委員会③(22日) 終末ケア検討委員会③(22日) 入所検討委員会(14日)	
	2月 節分 (3日)	身体拘束廃止・不適切ケア防止委員会④ (19日) 入所検討委員会(19日) 虐待防止委員会② (19日)	
	3月 ひな祭り (1日～7日)	感染症対策委員会④(12日) 事故防止・安全対策委員会③(12日)	

＜毎月開催の会議・訓練等＞

実務者会議 (第2火曜日)、栄養ケア会議 (第2火曜日)、リハビリ会議 (第2火曜日)、  
ケース会議 (第3水曜日)、ケアワーカーミーティング(第2火曜日)、防災訓練 (第2水曜日)

＜地域との交流・かかわり＞

杉並第一小学校震災救援所訓練参加 11月16日 (土)

阿佐谷JAZZ STREETS 2024 ディキシーパレード 10月26日 (土)

# 特別養護老人ホーム さんじゅ久我山

## 【重点事項の総括】

(文責：施設長 大久保憲和)

今年度は、新型コロナの影響により悪化した収支の改善と、閉ざされた施設運営を改善するため、ボランティア活用によるサービス向上を主眼に運営してまいりました。また、昨年度を上回る稼働率で運営することができ、ボランティアの活用も進んで利用者に喜んでいただけたと思います。職員の業務負担の軽減にもつながりました。これからも開かれた運営を行っていくように、感染予防を強化しつつ、ボランティアの活用やフロア面会等を行ないながら、丁寧なサービスを心がけてまいります。

重点目標として掲げた項目、計画の実施結果は以下の通りです。

### 1. 経営 安定した事業運営のための基盤づくり

#### (1) 合計稼働率 98%を目指し、事業所で黒字化する

(ア) 特養はつねに2～3名の待機者を作り安定した稼働率を維持する

・年間稼働率は、特養 97.4%、ショートステイ 82.7%、合計 95.8%。

・7月中旬と11月下旬に新型コロナが発生し、ショートステイの受け入れを一時中止。11月発生時は12月中旬に収束、待機者はいるものの年末年始が重なり、入所は年明けとなったため、目標達成できなかった。

(イ) 経営状況の共有

・実務者会議で決算や財務報告を共有する以外に、8月ワーカーミーティングで令和5年度決算説明、9月実務者会議で令和6年度第1四半期の財務報告説明を一般職員対象に行った。

#### (2) 介護・看護 2.5 : 1 配置で運営できる体制づくり

(ア) 新人の育成状況を見て検討

・人員不足のため配置基準運用に資する十分な職員研修が実施できなかった

・令和7年3月31日現在、常勤換算で22.25人であり、2.5 : 1 配置に近いが、実務上は病欠など生じたときに余裕がないと感じた

#### (3) 業務の効率化と経費削減の徹底

(ア) 打刻や申請書類提出を忘れずに行う。

・システム上エラーになる一部職員を除きほぼ打刻漏れなく行えるようになった

(イ) PCやシステムを活用し、ペーパーレス化を進める

・勤怠管理をシステムで行うようになり、申請等においてペーパーレス化が進んだ

#### (4) 機器設備の改修と更新

(ア) 介護ベッドの入れ替え

・今年度実施できず、次年度の補助金で対応予定

(イ) スチームコンベクションの更新、シンク脚の更新

・スチームコンベクション3月10日に更新済み。シンク脚は次年度実施予定

(ウ) 大型乾燥機、ネットワーク環境、PASの更新

・大型乾燥機は修理対応を継続。

・ネットワーク環境は、高速化しv4からv6へ更新した。

・PASは次年度実施予定

### 2. 運営 業務効率化による質の高いサービス提供

#### (1) ICT技術を活用した業務改善

(ア) 生産性向上・業務改善委員会の開催

・12月と3月に委員会を開催し、阿佐谷と情報交換を実施。次年度3か月に1回開催予定

#### (2) ひとりひとりに合わせたサービス提供

(ア) ケアプランチェック表の活用

・11月からチェック表を再開し、日中のみ活用を継続。プラン更新時に内容変更・追加をした

(イ) ミールラウンド強化し、ひとりひとりに合わせた食事提供

・管理栄養士、栄養士でのミールラウンドを強化し、栄養課内で情報を共有することができた。また、直営ならではのきめ細やかな食事サービス提供ができた（ひとりひとりの体調に合わせた食事提供や嗜好を考慮した食事提供）

### (3) リスクマネジメントの強化

#### (ア) 感染症対策の強化

- ・スタンダードプリコーションを実施中。新職員入職時に対応できるよう、マニュアルの整備も行った

#### (イ) 緊急時等の対応方法の定期的な見直し

- ・協力病院との連携体制を構築し、会議を実施した

### (4) 報酬改定・基準改定に合わせた組織体制づくり

#### (ア) 協力医療機関等との連携体制の構築、定期的な会議の実施

- ・協力病院との連携体制を構築し、会議を実施した

#### (イ) 短期入所者の看取り体制の構築

- ・短期入所者に対する看取りは、在宅医療機関との調整等十分な検討が必要なため、原則見送る

## 3. 地域 地域との連携強化と社会貢献

### (1) 自治会との連携強化と社会貢献

#### (ア) 自治会との防災訓練の実施

- ・3月26日に西自治会とともに、議員からの能登地震の震災状況の報告を聞き、炊き出し訓練を実施した。

#### (イ) 杉並区障害者福祉会館運営協議会主催の料理教室等への協力

- ・3月23日に杉並区障害者福祉会館、2月18日に高井戸保健センターで料理教室を実施した。

### (2) ボランティアの積極的受け入れ

#### (ア) 地域や社協等の地域団体からボランティアを積極的に受け入れる

- ・夏ボラの受け入れ、傾聴、音楽ボラなどを再開した。新たにアニマルセラピーを実施。保育園との交流も企画したが実施できず、次年度に再調整した。

#### (イ) ボランティア内容を整える

- ・職員にアンケートを実施。フラワーアレンジメントの手伝いや障子張り替えのボランティアを募り、手伝っていただくことで、職員の業務負担が軽減した

## 4. 人財 人を大切に作る職場作り

### (1) サービスマナー・接遇技術の向上

#### (ア) 利用者、家族、ビジネスパートナー等への適切な接遇

- ・キャリアパス研修で実施

#### (イ) 虐待の芽チェックリストの定期実施

- ・委員会にて、虐待の芽チェックリスト実施。以前よりも「している・ある」のチェックが増えていく。状況改善のために研修や外部からの目（面会など）も必要である

- ・利用者の生活部分での接遇向上のため、利用者の衣類・口周り・リネン等の環境整備を取り組みとして行った

- ・朝礼等で定期的に適切な接遇方法の確認を行った

### (2) 専門性の向上

#### (ア) 自ら考えて行動できる職員の育成

- ・基本となるルール習得のための取り組みを実施した

- ・考える力を強化するため、「こういう時はどうする？」等朝礼等でディスカッションを行った

#### (イ) 内部外部研修の実施

- ・ほぼすべての正規職員が専門性やキャリア向上のための研修を受講した

### (3) 生き生きと働ける職場

#### (ア) 連続5日以上のリフレッシュ休暇の取得

- ・介護正職員で実現できた

#### (イ) 高齢・介護・育児・障害があっても働ける職場づくり

- ・栄養課の女性・正職員が9月上旬から産後休暇、育児休暇を取得

- ・介護課の男性・正職員が9月中旬から10月中旬に1か月間の育児休暇を取得

## 【行事・会議等開催状況】

時 期	施設行事 (利用者に関するもの)		内部行事（職員主体） 《会議・研修・訓練等》	
令和 6年	4月	花見会 サクソ演奏会 ピアノ演奏会	フラワーアレンジメント	入所検討委員会・身体拘束廃止委員会 非常食訓練・感染症勉強会（BCP） 安全対策委員会
	5月	ピアノ演奏会	フラワーアレンジメント	入所検討委員会・防災訓練・感染症研 修
	6月	梅ジュース作り 二胡演奏会	フラワーアレンジ	入所検討委員会・防災訓練（放水訓練） 感染症対策委員会・身体拘束研修
	7月	七夕会、花火 ピアノ演奏会	フラワーアレンジメント 不在者投票	身体拘束廃止委員会・事故防止委員会 看取り勉強会
	8月	ピアノ演奏会	フラワーアレンジメント	感染症対策委員会・震災訓練（BCP） 虐待防止委員会
	9月	納涼祭 敬老会 ピアノ演奏会	フラワーアレンジメント	入所検討委員会・水害訓練（勉強会） 褥瘡対策委員会・虐待防止研修
	10月	二胡演奏会	フラワーアレンジメント 不在者投票	入所検討委員会・身体拘束廃止委員会 感染症研修・非常食訓練
	11月	焼き芋会	フラワーアレンジメント	普通救命講習会
12月	クリスマス会		入所検討委員会・感染症対策委員会	
令和 7年	1月	お祝い膳 ピアノ演奏会 二胡演奏会	フラワーアレンジメント アニマルセラピー	身体拘束廃止委員会・感染症研修 身体拘束研修・事故防止安全委員会
	2月	節分会 サクソ演奏会 ピアノ演奏会	フラワーアレンジメント	入所検討委員会・虐待防止委員会 感染症対策委員会・感染症勉強会
	3月	ひな祭り会 ピアノ演奏会	フラワーアレンジメント	夜間想定防災訓練・看取り勉強会 安全対策委員会・事故防止安全委員会 事故防止研修・虐待防止研修 防災訓練（町会合同）

定例会議：実務者会議（第2水曜日）、給食会議（第3水曜日）、リハビリ会議（第3水曜日）、ケース会議（最終水曜日）

定例活動：ホーム喫茶（最終土曜）

# 居宅介護支援事業所 さんじゅ久我山

## 【重点事項の総括】

(文責：主任介護支援専門員 星 智子)

### 1. 安定した事業運営のための基盤づくり

#### (1) 介護予防支援の指定、件数設定、認定調査の受入れ

##### (ア) 地域の受け皿として積極的に指定を受ける

・介護予防支援の指定は、報酬単位数の微増と包括支援センターの関りが複雑なことから、指定を受けている地域の事業所数も少なく、メリットもないため見合わせた。

##### (イ) 能力に応じた目標件数を設定する

・無理のない範囲で目標設定をし、収入も増加した。

##### (ウ) 地域の人材不足等の諸事情による認定結果の遅延も踏まえ積極的に受託する

・久我山に接する世田谷区、三鷹市をはじめとして、久我山の施設に居住している利用者の他保険者の調査委託は積極的に受けた。

#### (2) 専門性の向上

##### (ア) 内外部の学習会、研修、連絡会に参加する

・業務に差し支えない範囲で資質向上のための研修参加を実施した。

### 2. 業務効率化による質の高いサービス提供

#### (1) 業務効率化と経費削減

##### (ア) 無駄のない消耗品の使用、不要な印刷をなくす

・ネット FAX の利用、帳票は必要時印刷するようにした

##### (イ) 訪問時のモバイル使用の練習をする

・スマホ利用により、事業所に戻らなくても必要時に訪問先で連絡調整を行った。

・場所と人を選び、モバイルを持参して記録を入力した。

#### (2) 制度改正に合わせ適正な組織体制づくり

##### (ア) BCP を適宜見直す

・災害時 BCP を法人 BCP と照らし合わせて、見直しを行った。

### 3. 地域との連携強化と社会貢献

#### (1) 介護教室への協力

##### (ア) 地域と関係を築くための企画立案（介護相談、老いの準備、健康教室等）をする

・ケア 24 久我山と協力し、地域ケア会議に参加し、地域住民の防災意識を高める活動を行った。

#### (2) 自己研鑽

##### (ア) 介護保険制度の情報を収集し、対応を進めることで質の高いケアマネジメントを提供する

・業務効率化のため、音声入力システムや AI 要約機能ソフトの情報収集を行った。

【日常業務報告】

時期	業務状況 (件)			さんじゅ久我山 利用紹介 (件)		初 回	会 議 ・ 研 修 等	
	居宅介護 支援	予防 支援	認定調査 委託	特養	ショート ステイ			
令和 6年	4月	42	1	4	0	7	3	実務者会議、感染症勉強会、ワクチンの話
	5月	44	1	9	1	6	4	実務者会議、防災訓練、リスクマネジメント委員会
	6月	42	1	1	0	8	0	実務者会議
	7月	40	1	5	0	8	0	実務者会議、監督職会議、虐待防止研修①、事業所連絡会①高井戸地域
	8月	41	1	9	0	10	0	虐待防止研修②、実務者会議、ケアマネ勉強会、虐待委員会、SV
	9月	40	2	9	0	9	1	虐待防止研修③、管理者向け研修、リスクマネジメント委員会、実務者会議、キャリアパス研修、虐待委員会打合せ、久我山地域管理者会議、高井戸圏域在宅医療地域ケア会議、SV
	10月	39	2	6	0	9	1	実務者会議、管理者向け研修、SV
	11月	41	2	4	0	9	1	リスクマネジメント委員会、虐待研修（在宅）、監督職会議、実務者会議、勤労時説明会
12月	36	2	5	0	8	0	実務者会議、ケアマネ勉強会、SV	
令和 7年	1月	40	2	6	1	7	3	実務者会議、地域懇談会、SV、発達障害研修
	2月	40	2	3	1	6	1	実務者会議、管理者会議、リスクマネジメント委員会、高井戸圏域在宅医療地域ケア会議、SV
	3月	42	2	3	1	7	1	ウエルモ説明会、実務者会議、杉並区主任介護支援専門員研修、SV

# 杉並区地域包括支援センター ケア 24 久我山

## 【重点事項の総括】

(文責：センター長 公文青子)

### 1. 安定した事業運営のための基盤づくり

#### (1) 件数設定、実態把握の確実な算定

##### (ア) 自プランを適正に分担する

・自持プランの件数を適切に分担調整し、負担が偏らないように対応した。新規プランは常に複数件発生し、報酬にならない自己作成プランの対応にも追われている。

##### (イ) 実態把握を意識しもれなく報告する

・実態把握の報酬は廃止された。

#### (2) 専門性の向上

##### (ア) 事業所内外の研修等に参加し、自己研鑽を重ね、専門性を意識しケース対応する

・必要な外部研修には参加できている。事業所内研修のロールプレイングでは、面接技術向上、カスハラ対策の向上につながっている。

#### (3) 事業効率化と経費削減

##### (ア) 残業の無い業務遂行

・定時退社がほとんどだが、緊急対応やミーティングの時間の確保ができず、まれに 30 分から 1 時間の残業が発生した。

##### (イ) 物品の取り扱いに注意し、購入、廃棄はよく検討する

・センター内の整理を進め、物品の管理をしやすいように心がけることができた。

### 2. 業務効率化による質の高いサービス提供

#### (1) 制度改正等に合わせた適正な組織体制づくり

##### (ア) 項目ごとに担当者を決め、適性に研修を実施する

・毎日のミーティングや業務中でも困ったときは相談し、個人が困らないように配慮した。

### 3. 地域との連携強化と社会貢献

#### (1) 特養との協働

##### (ア) テラスを活用した住民の集いの場を作る

・爽やかウォーキングの定期開催を進めることができた。今後も支援を継続する。

・地域ケア会議を経て、地域の事業所と防災をテーマにしたグループを立ち上げた（KKB：久我山介護事業所防災チーム）。

### 4. 人を大切にする職場づくり

#### (1) 事業所対応力の向上

##### (ア) 事業所内外の必要な研修に参加し、内容を選び伝達研修を行う

・前述 1 (2) と同じ

#### (2) 教育体制の構築

##### (ア) 新人や経験の浅い職員の研修を体系的に行う

・新人が一人立ちできた

##### (イ) 面談技術の向上を目指し、ロールプレイングで自己の振り返りと他職員から学びを得る

・ロールプレイングは継続して行っており、その時に必要な状況設定を行い次年度も継続する（令和 7 年度は面接をコントロールする）

【日常業務報告】

相談総件数					予防プラン総件数		
	新規	電話	訪問	来・他		自前	委託
6,529	355	4,301	1,137	823	2,445	1,770	675

【ケア24会議】

令和6年	4月	在宅医療地域ケア会議／コアメンバー会議／WF ケース会議／業務説明会2日間／ニチイホーム／事業評価ヒアリング（区）
	5月	コアメンバー会議2件／在宅医療地域ケア会議／ヘルパー勉強会
	6月	地域ケア会議／家族介護教室打ち合わせ／コアメンバー会議2件／在宅医療打ち合わせ／たすけあい担当者連絡会
	7月	コアメンバー会議4件／介護者ひろば／高井戸エリア会議／在宅医療打ち合わせ／運営推進連絡会
	8月	地域ケア推進会議／ケアマネ勉強会／ケース会議
	9月	在宅医療打ち合わせ／居宅管理者会議／在宅医療地域ケア会議／コアメンバー会議3件／ケアマネ勉強会打合せ
	10月	コアメンバー会議1件／ケアマネ勉強会／区現地調査／たすけあい合同連絡会／在宅医療打合せ
	11月	ケース会議／区ヒアリング／在宅医療地域ケア会議／在宅医療打合せ
令和7年	12月	WF 支援会議／在宅医療打合せ／たすけあい合同／法人説明会／ケアマネ勉強会／セコム事業会議／初期集中報告会／コアメンバー会議3件
	1月	地域ケア会議
	2月	コアメンバー会議1件／在宅医療地域ケア会議／在宅医療打合せ／たすけあい事業所連絡会／セコム情報共有会議／居宅管理者会議／たすけあい合同
法人外定例	3月	地域ケア会議3件／コアメンバー会議1件／生活支援体制整備
		センター長・センター長連絡会／南ブロック会議／たすけあいネットワーク地域連絡会 介護予防ケアマネジメント支援会議／地域包括ケア推進員連絡会（隔月）／宮前地区民生委員協議会（第3木曜日）／グループホーム等運営推進会議（だんらん、フォービスライフ→花物語その他事業所・それぞれ隔月または出席依頼時）
センター内定例		包括ミーティング、振り返りミーティング、施設長ミーティング

### 【ケア 24 事業】

令和6年	4月	爽やかウォーキング
	5月	ニチイホーム共同事業
	6月	認サポ／西宮中災害体験授業／西宮中震災救援所／爽やかウォーキング
	7月	高2小防災ミーティング／認サポ
	8月	西宮中震災訓練
	9月	
	10月	高2小震災救援所運営委員会／家族介護教室／爽やかウォーキング
	11月	高2小震災避難訓練／高齢者住宅住民介護保険の話
	12月	西宮中震災救援所総会
令和7年	1月	地域懇談会／爽やかウォーキング／高2小震災救援所運営会議
	2月	西宮中震災救援所／西自治会会合
	3月	爽やかウォーキング／西宮中震災救援所
定例	火よう会（第1火曜日）／かけひサロン（第2、4木曜日）／さくらの会（第4木曜日） ／こもれびサロン（第4金曜日）／むくげ（第2、4月曜日）	

### 【ケア 24 研修】

令和6年	4月	所内研修
	5月	虐待研修3回
	6月	初任者研修2回／精神保健福祉研修1回
	7月	精神保健福祉研修3回／初任者研修2回
	8月	精神保健福祉研修3回／主任ケアマネ研修2回／権利擁護研修
	9月	協議会ケアマネ研修／介護報酬改定研修
	10月	ケアマネジメント支援会議内研修／虐待研修2回／包括現任者研修／主マネ更新2回／杉並区管理者研修
	11月	救急救命講習／短期集中プログラム研修／困難事例対応研修／虐待研修／生活行為見学
	12月	主マネ更新／社会課題別研修
令和7年	1月	専門職同行訪問／在宅医療多職種研修／ケアマネジメント支援会議内研修／キャリアパス研修（法人）
	2月	虐待対応研修
	3月	職種別（医療）研修／市区町村職員研修／杉並区困難事例研修
定例	所内：ロールプレイング5、9、1月実施／個人情報保護（年2回）	

## 各種データ報告

### 【特別養護老人ホームの利用状況】 ※特養の利用率%の下の( )内の数字は新規入所・退所

		さんじゅ阿佐谷		さんじゅ久我山	
		特 養 (定員 45)	ショートステイ (定員 5)	特 養 (定員 50)	ショートステイ (定員 6)
令和 6年	4月	98.2% 新規入所・退所 (0・1)	104.7%	96.4% 新規入所・退所 (1・1)	73.3%
	5月	98.6% (2・1)	100.0%	98.7% (1・0)	79.6%
	6月	95.5% (0・1)	104.7%	100% (0・0)	73.9%
	7月	93.3% (1・2)	133.5%	98.1% (0・2)	78.0%
	8月	95.2% (1・0)	148.4%	97.7% (1・0)	84.9%
	9月	96.4% (1・1)	132.0%	99.3% (1・0)	77.8%
	10月	98.6% (0・0)	116.8%	99% (0・1)	102.2%
	11月	99.8% (0・0)	100.0%	98.2% (1・0)	107.8%
	12月	96.7% (0・0)	105.2%	93.3% (0・3)	64.0%
令和 7年	1月	98.4% (1・1)	97.4%	93.4% (4・2)	103.8%
	2月	96.7% (1・1)	103.6%	98.6% (1・0)	75.6%
	3月	88.7% (1・3)	103.9%	96.5% (1・2)	71.5%
年間平均		96.3%	112.6%	97.4%	82.7%
新規入所・退所合計 (8・11)				新規入所・退所合計 (11・11)	
特養+SS 合計 97.9%				特養+SS 合計 95.8%	

### 【特別養護老人ホーム 面会者数】

面会者数 (家族・友人・その他を含む)	さんじゅ阿佐谷		さんじゅ久我山	
		対面面会 514名	オンライン面会 85名	対面面会 485名

## 【特別養護老人ホーム 在籍利用者の状況】

※令和7年3月31日現在

施設名	さんじゅ阿佐谷	さんじゅ久我山
男女比	男性 3名 : 女性 40名	男性 8名 : 女性 41名
要介護度	平均要介護度 4.39 要介護1 0名 要介護2 0名 要介護3 2名 要介護4 25名 要介護5 16名	平均要介護度 3.64 要介護1 2名 要介護2 4名 要介護3 12名 要介護4 21名 要介護5 10名
在籍年数	平均在籍年数 3.9年 (最長 18年)	平均在籍年数 3.6年 (最長 21.9年)
年齢層	平均年齢 89歳 最高齢 104歳 60歳代 0名 70歳代 3名 80歳代 20名 90歳代 16名 100歳代 4名	平均年齢 88.6歳 最高齢 106歳 50歳代 1名 60歳代 0名 70歳代 5名 80歳代 17名 90歳代 20名 100歳代 6名

## 【ヒヤリハット・事故事例および件数】

さんじゅ阿佐谷

	事 例	件 数
事 故	転倒・尻もち・転落	60
	誤薬・配薬ミス、与薬忘れなど	45
	対物（義歯破損など）	6
	対人トラブル	6
	補食忘れ、禁止食材提供、食形態誤提供	17
	盗食・異食	12
	移動時の事故	1
	爪切り	13
	便秘カウントミス	5
	窒息	1
	その他	9
		事 故 合 計
ヒ ヤ リ ハ ッ ト	転倒未遂、ベッドや車椅子からの立ち上がり、単独トイレや歩行など	407
	ベッドや車椅子（椅子）からの転落未遂、センサー感知などで端座位など	71
	与薬忘れ未遂、セッティングミス、便秘カウンドミスなど	19
	暴力行為や対人トラブル未遂	109
	1人でエレベーターに乗り込む、他のフロアに行ってしまう所在不明確など	67
	ベランダに出る、お守りセンサーつけ忘れ等、離設未遂	116
	異食・盗食・異なる食形態間の交換など	75
	他利用者が介助しようとするなど	8
	義歯紛失未遂など	37
	塗布薬の置忘れ	10
	その他	64
	ヒヤリハット 合計	983

さんじゅ久我山

	事 例		
事 故	薬（落薬、服薬漏れ、誤薬、排便カウントミス）	30	
	転倒、転落、しりもち	60	
	誤食、誤配膳	23	
	爪切り失敗による受傷	8	
	物品喪失	1	
	衣類破損	1	
	対人トラブル	14	
	表皮剥離	5	
	便秘カウントミス	3	
	軽微な受傷	41	
	利用者による物品破損	4	
	火災報知器誤作動	1	
	事 故 合 計		191
	ヒ ヤ リ ハ ッ ト	一人で移動した、立ち上がろうとしていた、転倒未遂、転倒、単独トイレ	4
便秘カウント不明、量不明		27	
服薬漏れ、落薬発見後内服		8	
誤食、盗食、配膳ミス未遂		14	
対人トラブル		3	
個別移動		30	
センサー起動トラブル		8	
その他		42	
ヒヤリハット 合 計		136	

## 【実習生・ボランティア等との関わり】

	さんじゅ阿佐谷	さんじゅ久我山
<b>実習生等 受け入れ</b> ※学校名、人数、 期間等	《介護福祉士養成課程実習》 日本福祉教育専門学校 (1名) 8月5日～9月15日 早稲田速記医療福祉専門学校 (1名) 9月9日～10月11日 武蔵野大学 (1名) 10月29日～12月10日  《次世代への介護の魅力発信》 高校3年生 (1名) 8月 7日 高校1年生 (1名) 8月21日	《特別支援学校実習》 都立永福学園 (1名) 6月24日～7月5日  《東京都介護の仕事就業促進事業》 6月12日 1名  《次世代への介護の魅力発信》 高校生 レクリエーション手伝い (8月1日)
<b>ボランティア 受け入れ</b> ※団体名、内容、 人数期間・日数等	《通年》 年間延べ 83回 団体 2・個人登録 4名  《団体》 ・屋上庭園整備 植木応援団 ・ギター演奏 ・オカリナ演奏  《個人登録》 ・レクリエーション 1名 ・シーツ交換 1名 ・繕い物 1名 ・車椅子清掃/レクリエーション 1名	・クッション作り 70名 (4月～3月 第2月曜日) ・花壇のお花の管理、植え替え 2回 ・二胡演奏会 3回 ・高校生ボランティア受入 6名 ・大学生ボランティア受け入れ 1名 ・歌詞カードの作成 1回 ・ピアノ伴奏 年間 10回 ・傾聴ボランティア 年間 9回 ・サックス演奏会 年間 2回 ・アニマルセラピー 1回 ・その他 年間 6回

## 【生活支援事業 サポートさんじゅ】

福祉有償運送事業

年間運行回数	4,277 トリップ 月平均 356 トリップ	利用登録者数	161 名
--------	----------------------------	--------	-------

## 【職員勤務状況】

法人全体 令和7年3月31日現在 常勤62名、非常勤48名

本部(役員除く)

	新入職		退職		3月31日現在数	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
本部長	0名	0名	1名	0名	0名	0名
事務員	0名	0名	1名	1名	3名	0名
計	0名	0名	2名	1名	3名	0名
平均年齢					41.7歳	-歳
平均在職年数					8.06年	-年

特別養護老人ホーム さんじゅ阿佐谷(医師除く)

	新入職		退職		3月31日現在数	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施設長	0名	0名	0名	0名	1名	0名
生活相談員	0名	0名	0名	0名	1名	0名
介護支援専門員	0名	0名	0名	0名	1名	0名
介護職員	3名	3名	4名	2名	15名	10名
看護職員	1名	1名	0名	1名	2名	2名
機能訓練指導員	0名	0名	0名	0名	1名	0名
管理栄養士	0名	0名	0名	0名	1名	0名
栄養士	0名	0名	0名	0名	1名	0名
調理員	0名	0名	0名	0名	3名	1名
事務員	1名	0名	0名	0名	1名	1名
補助・洗濯・清掃	0名	3名	0名	1名	0名	7名
計	5名	7名	4名	4名	27名	21名
平均年齢					44歳	52歳
平均在職年数					8.6年	5.3年

特別養護老人ホーム さんじゅ久我山(医師除く)

	新入職		退職		3月31日現在数	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施設長	0名	0名	0名	0名	1名	0名
副施設長 兼 介護支援専門員	0名	0名	0名	0名	1名	0名
生活相談員	0名	0名	0名	0名	2名	0名
介護職員	0名	1名	2名	2名	13名	12名
看護職員	0名	0名	0名	0名	2名	1名

機能訓練指導員	0名	0名	0名	0名	1名	0名
管理栄養士	0名	0名	0名	0名	1名	0名
栄養士	1名	0名	0名	0名	3名	0名
調理員	0名	0名	0名	0名	1名	5名
事務員	0名	0名	0名	0名	0名	2名
補助・洗濯・清掃	0名	0名	0名	2名	0名	5名
計	1名	1名	2名	4名	25名	26名
平均年齢					43歳	53歳
平均在職年数					11.9年	9.5年

居宅介護支援事業所 さんじゅ久我山

	新入職		退職		3月31日現在数	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
主任介護支援専門員	0名	0名	0名	0名	1名	0名
介護支援専門員	0名	0名	0名	0名	0名	0名
計	0名	0名	0名	0名	1名	0名
平均年齢					48歳	
平均在職年数					9.2年	

地域包括支援センター ケア24久我山

	新入職		退職		3月31日現在数	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
主任介護支援専門員	0名	0名	0名	0名	3名	0名
保健師・看護師	1名	0名	0名	0名	2名	0名
社会福祉士	1名	0名	1名	0名	2名	0名
介護支援専門員	0名	0名	0名	0名	0名	0名
事務員他	0名	0名	0名	0名	0名	0名
計	1名	0名	1名	0名	7名	0名
平均年齢					48歳	0歳
平均在職年数					8.8年	0年

## 【収支計算書(決算報告書)作成にあたり】

各拠点が作成する計算書類等とサービス区分についての法令根拠等は、以下のとおりです。

### 法人本部拠点が作成する計算書類等とサービス区分

当拠点区分において作成する計算書類等は以下のとおりです。

- (1) 法人本部拠点区分計算書類(第1号第4様式、第2号第4様式、第3号第4様式)
- (2) 当拠点区分において、サービス区分は一つであるため「社会福祉法人会計基準の制定に伴う会計処理等に関する運用上の取扱いについて」(平成28年3月31日厚生労働省雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長、老健局長通知、雇児発0331第15号・社援発0331第39号・老発0331第45号、以下「運用上の取扱い通知」という。)25(2)ウの規定に基づき、拠点区分資金収支明細書(別紙3(⑩))の作成は省略している。
- (3) 当拠点区分において、サービス区分は一つであるため「運用上の取扱い通知」25(2)ウの規定に基づき、拠点区分事業活動明細書(別紙3(⑪))の作成は省略している。

### 指定介護老人福祉施設さんじゅ阿佐谷拠点が作成する計算書類等とサービス区分

当拠点区分において作成する計算書類等は以下のとおりです。

- (1) 指定介護老人福祉施設さんじゅ阿佐谷拠点区分計算書類(第1号第4様式、第2号第4様式、第3号第4様式)
- (2) 拠点区分事業活動明細書(別紙3(⑩))
  1. 指定介護老人福祉施設
  2. 指定短期入所生活介護事業
  3. 見守り配食サービス
  4. 福祉有償運送事業
  5. 多世代交流事業
- (3) 「社会福祉法人会計基準の制定に伴う会計処理等に関する運用上の取扱いについて」(平成28年3月31日厚生労働省雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長、老健局長通知、雇児発0331第15号・社援発0331第39号・老発0331第45号、以下「運用上の取扱い通知」という。)25(2)ウの規定に基づき、拠点区分資金収支明細書(別紙3(⑩))の作成は省略している。

### 指定介護老人福祉施設さんじゅ久我山拠点が作成する計算書類等とサービス区分

当拠点区分において作成する計算書類等は以下のとおりです。

- (1) 指定介護老人福祉施設さんじゅ久我山拠点区分計算書類(第1号第4様式、第2号第4様式、第3号第4様式)
- (2) 拠点区分事業活動明細書(別紙3(⑩))
  1. 指定介護老人福祉施設
  2. 指定短期入所生活介護事業
  3. 指定居宅介護支援事業
  4. 杉並区地域包括支援センター
  5. 指定介護予防支援事業
- (3) 「社会福祉法人会計基準の制定に伴う会計処理等に関する運用上の取扱いについて」(平成28年3月31日厚生労働省雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長、老健局長通知、雇児発0331第15号・社援発0331第39号・老発0331第45号、以下「運用上の取扱い通知」という。)25(2)ウの規定に基づき、拠点区分資金収支明細書(別紙3(⑩))の作成は省略している。